

大阪府知事・大阪市長同日選挙の支持対立に潜在する 住民コンフリクトの実証研究

伊藤 理史・三谷 はるよ
(人間科学研究科 経験社会学)

1. はじめに

報告者は、大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」の「平成 23 年度大学院生調査研究助成（第 3 次）」を受けて、2012 年 2 月に大阪府民を対象とした「大阪府民の政治・市民参加と選挙に関する社会調査」を実施した。以下に、この調査の目的、概要と得られた結果について報告する。

2. 調査目的

本調査の目的は、2011 年 11 月 27 日に行われた大阪府知事・大阪市長同日選挙の支持対立の背後に潜在する、住民コンフリクトの実態を解明することである。有権者の支持を直接集める橋下現大阪市長の政治手法は「ポピュリズム」と評される。ポピュリズム現象は、既存の政党や選挙制度のもとで誕生しているため、有権者側の変化から生じていると考えられるが、このような視点に立った研究は少ない。そのため報告者は研究の空白を埋めるべく、有権者の政治意識に注目した社会調査を企画した。

3. 調査概要

「大阪府民の政治・市民参加と選挙に関する社会調査」の概要は以下のとおりである。

- ・調査方法：郵送質問紙調査
- ・調査対象者：20 歳～79 歳までの大阪府民の男女（母集団：3000 人）
- ・対象者抽出方法：選挙人台帳を用いた層化多段等間隔抽出（ランダムサンプリング）
- ・調査地点：大阪市 4 区／藤井寺市／和泉市／茨木市／箕面市／寝屋川市／守口市
- ・調査時期：2012 年 2 月 1 日～2 月 29 日
- ・有効回収率：957／3000（32%）

4. 調査結果

調査の結果、おおよそ次のようなことが明らかとなった。橋下大阪市長は過半数の支持を得ているということ（「支持する」「ある程度支持する」の合計で 80%程度）、また各政党の支持者（無党派層を含む）から多くの支持を得ていること、それに対して大阪維新の会の支持率は、既存の政党に比べて特別高いとは言えないこと、有権者は投票する際に「候補者の政策」を重視していること、などである。今後は有権者の社会経済的地位と支持政党・投票行動の関係について、詳細に分析する予定である。